

新しい年をお迎えして

十二月早々に雪が降り、雪のけの苦勞に人々の心に重荷をせおられているのではないのでしょうか。正月も明けて、皆様方には、いい一年でありますように願いたいものです。

昨年は、オリンピックの年で、多くの金メダルを獲得され、選手の皆様の活躍に感動を受けました。また、日本人がノーベル賞受賞されたことも大きな感動を受けました。

反対に悲しい不幸な事件や事故が起こりました。「この世は、いいこと悪いことが起こるのが世の常であります。」

此の事は、いいことだと思つて、有頂天になつて、行動を起せば、良くないことが起こりうる可能性を秘めている。私たち生きていこうと思えば、しばらくの間、我慢するといった心の精神修養が必要になってきます。昔の人は、のんびり構えていたからこそ、毎日むなしく暮らすことになつたでしょう。世の中、一歩一歩着実に進んでいかないと、人の幸せが得られないものです。人は努力すれば成就できるものです。努力の反対語に懈怠という言葉があります。人には怠け心をもっています。一旦気を抜けば、そのままの状態が続くものです。この状態にしないようにするには、規則正しい生活をするので、メリハリをつけて、日々の暮らしを大切にしたいものです。

長生きのお話

少欲知足

ある研究者が、猿に二十年以上飼育して、研究

した結果、食べたい放題の量の餌を与えていた猿とカロリーコントロールして餌の量をおさえていた猿を比較すると、食い放題の猿は禿げシワだらけの老ザルになって、カロリーコントロールした猿は元気がつらつとしたそうです。

過度の欲望を持つことなく、常に足るを知るということは、昔東洋人が体験的に悟り得た人生観です。

人間には、確かに欲望がなければ生きていけません。しかし、欲望を募らせ、それが貪欲にまでなつていくとどのような状況にも満足できず、何物にも感謝ができなくなります。

これはある方の詩です。

日本では、おにぎり一つぐらゐと粗末にし、インドではおにぎり一つこそと拝む。

どちらが幸せであろうか。おにぎりを食べる時、日本人とインド人はどちらが幸せでしょうか。

少欲知足が身につくと、何事にも感謝しつつ、心身ともに健康的な生活が送れるのではないのでしょうか。

正月の由来



正月は家に歳神様をお迎えし、祝う行事です。歳神とは一年の初めにやってきて、その年の作物が豊かに実るように、また、家族みんなが元気で暮らせる約束をしてくれる神様です。正月に門松「かどまつ」やしめ飾り、鏡餅を飾ったりするのは、すべて歳神様を心から歓迎するための準備です。

そもそも、私たちの祖先は、全てのモノには命がありなんらかの意味がある、という「アニミズム」を信仰しており、作物の生命「いなだま」と人間の生命「たま」は一つのものであると考えていました。そのため、人間が死ぬとその魂はこの世とは別の世界に行き、ある一定の期間が過ぎると個人の区別が無くなり「祖霊」という大きな集

団、いわゆる「ご先祖様」になると信じられていました。この祖霊が春になると「田の神」に、秋が終わると山へ帰って「山の神」に、そして正月には「歳神」になって子孫の繁栄を見守ってくれているのだと言います。

今後の予定

念仏講の新年会

とき 一月二十七日(日)十一時より、

女性の会の集い

予定日 二月十七日(日)

※内容ときまりましたら、女性の会員さんよりご案内いたします。

なぜなぜ法話

市や町はいいけど、区は嫌いだという動物ってなくんだ。

にっこり微笑みかければ、相手は好きだということ、それとなく伝えることになるでしょう。

そうすると相手にもその気持ちが伝わり、こちらも好きになってきます。また、好いてくれる人には喜びを与えることになり、にこやかな顔、明るいあいさつほど世の中を楽しくするものはないですね。

(答えは、スカンク)



この掛け軸は、十六善神といって、大般若経転読にかけます。いつごろ当山に所蔵されているかはわかりませんが、西川家の先祖様が、家内安全、子孫繁栄の祈願するため、大般若経三〇〇巻を奉納され、毎年一月二日曜日(日)の転読法要が営まれていました。

本来、守護十六善神といわれ「陀羅尼集経」や「仁王般若念誦法」に説かれ、四天王と神将、鬼神の十二善神からなるとされるが、実際には釈迦如来とともに配される例が殆どで、その作例においては「般若守護十六善神王形体」に示される像とは異なっています。釈迦十六善神画像は大般若経六百巻の読誦を行って神仏を供養します。

祈願作法は、全経文を読まずに題目をとなくて風を入れます。町内では、庄堺区にもあつて、毎年夏の時期に老人クラブの方々が虫干しをされています。

発行者

高島市安曇川町田中三四五九

天台真盛宗玉泉寺 木村 哲基

電話 〇九〇—三七〇八—七二〇六

Eメール svka37375@leto.eonet.ne.jp

編集後記

昨年末には、政権が交代して、少しだけ、明るい材料が出てきました。私たちの人生、最後まで生きがいのある暮らしを目指して、上手に子孫に生きがいをついででもらえることが一番の幸せではないでしょうか。どうか皆様にはしすぎないようお身体を大切に、今年一年いい年でありますように祈っています。